旭ヶ丘キリストの教会
主日礼拝順序
２０２１年７月２５日

司会：千田俊昭
奏楽：千田祥子

黙　　祷		一　同
讃　　美※	Ⅱ讃美歌191「主のまことは」	一　同
主の祈り※	（聖歌表扉または讃美歌564番をご覧ください）	
讃　　美	讃美歌452「正しく清くあらまし」	一　同
教会学校	絵本「白菜夫人と青虫ちゃん」	牧　師
讃　　美	讃美歌508「主よ日に日に」	一　同
聖書朗読	黙示録8:1-6	
奨　　励	黙示録の福音(第14回)	牧　師
主　　題	**「神の沈黙、人の祈り」**	
讃　　美	Ⅱ讃美歌157「この世の波風」	一　同
献　　金	献金と感謝の祈り	
聖　　餐		
頌　　栄※	讃美歌541「父、御子、御霊の」	一　同
祝　　祷※		牧　師
来週の箇所	**黙示録第10章**	

※印のところでは御起立下さい。

☆　はじめて集会においでの皆様。心から喜び、感謝してお迎え申しあげます。しかし、初めての方に無理な勧誘をするようなことは、一切いたしません。むしろ、そっとしておきたいと思うわけです。その態度を冷淡や不親切と誤解なさらないで下さい。
☆　私たちは何派にも属さないクリスチャン個人の自由な交わりの教会です。聖書を学び、キリストに信頼し、キリストが与えてくださる神の義を何より大事にし、信じる者同志が兄弟姉妹として受け入れ合う群れです。
☆　献金は神への感謝として、各自が自由意志で行うものです（２ｺﾘﾝﾄ9:7）。入り口に献金箱がありますので、どうぞご利用下さい。
☆　キリスト教について、あるいはどんな質問でも、いつでも遠慮なく牧師にご相談下さい。
☆　第二礼拝後、軽食を用意してありますので、お時間のある方はどなたでも、ご自由にお召し上がり下さい。
☆　二階に教会図書がありますので、どうぞご利用下さい。

旭ヶ丘キリストの教会　ニュース

《今週の歩み》
7/25(日)聖日礼拝
/26(月)
/27(火)
/28(水)
/29(木)
/30(金)
/31(土)13-16子供ｵｰﾌﾟﾝﾊｳｽ

《祈りの課題》
①コロナ禍の速やかな終息のために
②礼拝に来れなかった人々のために
③教会学校の子供たちも救われますように

《聖所の香の祭壇》

良書ハイライト

「ハイドンの信仰と音楽」

ハイドンにとって音楽は、比類ない目的と喜びをその人生にもたらした。対照的にその家庭生活は、苦痛と、満たされなかった約束の源であった。

若い頃彼はある少女に恋をしたが、修道院に入られてしまい呆然となった。ハイドンはその弾みで少女の姉に結婚を申し入れ、彼女は受け入れた。だが新婚したての二人は、互いにまったく気質が合わない事に気づいた。新婦は夫が作曲の天才であることにまったく敬意を示さず、彼の草稿譜を裁断してヘアカール用の巻紙に使ってしまった！

ついに二人は別居を決意する。それでもハイドンは信仰を失わず、離婚など考えもしなかった。彼は人生を通じて妻を寛大に支え、その姿勢は遺言にも示された。ハイドンは、妻を悪し様に言わなかった男として記憶されている。

結婚が期待外れだったからといって、作曲への情熱を思いとどめられたり、神への深い信仰心が妨げられることはなかった。ハイドンの作品と信仰は、様々な形をとって複雑に結びついている。彼は毎朝早く目を覚まし、作曲を始める前にひざまずいて祈りを捧げた。

クラビアに腰をおろすと、ハイドンは音楽にとりかかろうと、楽想や、主題、イメージを探り求めた。かつて彼はこう語った、「大して苦労もせず心に浮かぶなら、その音楽はさらに発展していく。だが先へ進まないようなら、何か間違いを犯していないか、そのため神の恩寵を失ったのではないか、それを見つけようとする。それから神のお許しが得られたと思えるまで、慈悲を祈り求める」。

P・カヴァノー著「大作曲家の信仰と音楽」(東京:教文館,2000)